

# 「居場所」づくり本格化

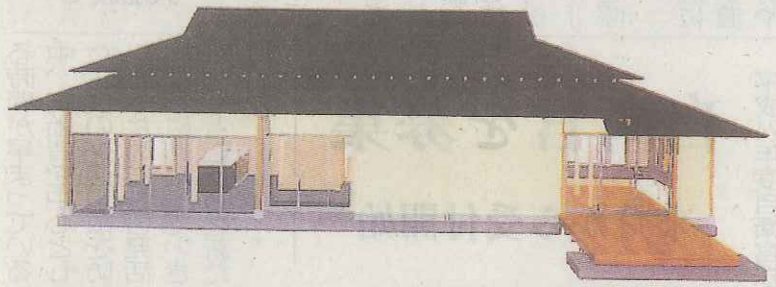
## 末崎町で 米国大手企業が全面支援 施設着工へ

大船渡市末崎町字平林地区で、有志たちが住民の「居場所」となる拠点施設づくりに取り組んでいる。宇宙航空分野にかかる製造などの大手として世界的に知られるハネウェル

(本社・米国ニュージヤージー州、デイビッド・M・コーティ会長兼最高経営責任者)が全面支援しており、24日には現地で地鎮祭が行われ、「ハネウェル居場所ハウス」として

来年3月11日の供用開始を目指す工事の安全を祈願した。

居場所ハウスの建設は、ハネウェル社が社会貢献プログラム「ハネウェル・ホームタウン・ソリューション」など



「ズ」の一環である「ハネウェル・ヒューマニタリアン救済基金」を活用し、同国の非営利人道支援組織「オペレーションUSA」などと協働しながら関連する取り組みを含めて全面的に後押ししている。

高齢者環境を考え活動する米国の非営利組織「Ingham」代表の清田英王さんが、ハネウェル社から被災地支援の申し出について聞き、

知人で末崎町でデイサービスセンターを運営する社会福祉法人典人

地鎮祭であいさつするハネウェル・ホームタウン・ソリューションズのトーマス・バックマスター代表①、伝統的要素も取り入れた「居場所ハウス」の完成イメージ②末崎町

会事務理事の内出幸美さんに紹介。被災後の高台移転などでコミュニティ再編が見込まれることから、末崎地区公民館(近藤均館長)にも呼びかけ、申し出を生かした住民の居場所づくりに地域ぐるみで取り組むことを決めた。

有志たちは清田さん提唱の基本コンセプトに基づき施設を民有地に建設して永続的に運営する方針とし、9月末に運営母体となる「居場所」創造プロジェクトを旗揚げ。近藤館長が理事長に就き、近く市にNPO法人資格取得を申請する。

建物は木造平屋で延べ床面積約150平方メートルを予定。設計は北海道大学建築計画学研究室の森傑教授が担当。津波被害を逃れた陸前高田市気仙町の古民家の部材も取り入れ、近代性と伝統を交え幅広い世代がくつろげるデザインとすることにした。総工費は約3200万円、施工は陸前高田市の有伊東組が担

当。

この着工を前にした同日の地鎮祭には、関係者や地域住民、ハネウェル・ホームタウン・ソリューションズ、スター代表、オペレーションUSAのリチャード・ウォルデン代表、戸田公明市長ら約100人が出席。厳かに神事を執り行い、くわ入れや玉ぐしをささげるなどして工事の安全を祈った。

「居場所」創造プロジェクトでは高齢者を主体としたカフェとしての供用などを見込んでいるが、住民参加のワークショップを随時開き、運営内容の具体化を図ることになっている。

5月にも大船渡を訪

れたというバックマスター代表は「居場所づくりの考え方はすぐくパワフル。世代を超えた人と人とのつながりを提供できる場になることを信じている」とエール。

近藤公民館長は「集団移転などで100世帯ほどが新たに加わる土地。高齢者も増えることから、その憩いの場や世代間交流の拠点施設として活用できるように、検討を重ねていきたい」としている。